

みみタロウ

日本語版 68号 2008年2月

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」

大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F

TEL: 077-523-5646 Fax: 077-510-0601

E-mail: mimitaro@s-i-a.or.jp

URL: http://www.s-i-a.or.jp



拝啓、在住外国人の皆様

韓国から日本に来て
15年。今の私は、日本の
言葉や文化にすっかり慣
れ、この国に居心地よさ

さを感じています。しかし、みみタロウの読者の多くが、
日本での生活にとまどい、子育てに悩みながら暮らして
いると思います。それぞれ人によって、性格や暮らしび
りも異なりますので、なかなかこのような場で自分の
意見を語ることは難しいのですが、私の考えも少し
話してみますね。

どんな国にいても外国人は外国人。特に日本は今まで
あまり外国人が住んだことがない国。日本人の間でも
自分の故郷に帰ることを「国に帰る」と言うような、内
と外の意識の強いこの国で、外国人がどんなに日本社会
の外に位置しているのか、想像に難しくありません。だか
ら私たちがこの国で外国人として暮らすのが大変なの
は当然です。そして立場を変えて考えてみると、外国人
を受け入れることになった日本人もまた難儀している
はず。そんな中、日本人はボランティアなども含め、
外国人を支援してくれています。でも私たち外国人は、
日本人に頼り、何でもしてくれることを期待しないで、
自分達で努力しなければならぬと思うのです。私たち
はなんらかの理由でもうここに住んでいるのだから、
本国にいるような状況で暮らせないのは当然。そこ
を勘違いして、何かにつけ「外国人は差別されている」
というような被害者意識を持っていると、正確な判断が
できない場合があります。たとえば子どもの問題。子
どもは子どもの社会で生きていく中で、いろんなことがあ
って学んでいくものです。学校でいろんなトラブルがあ
ったときに、「外国人だからこうなるんだ」という被害者
意識を持ってしまうと、そこから何も学ぶことができな
くなるのではないかと思います。子どもは自分自身の
価値観をどんどん育み、親から離れていく存在。子ど

姜 智娜

も友達や学校のことでいろいろ悩んで成長してい
きます。子どもの悩みまで親が抱えないで、そっと見守
って必要なときに手助けをするといい、というのが私の
考えです。親の役割や子育ての方法は国によって異な
りますが、外国に住んでいてもその社会に許される範囲
で自分を通せば、子どものアイデンティティの確立にも
役立つのではないのでしょうか。外国人も日本人も対等な
人間なのだから、無理して日本に迎合する必要はなく、
自分の頭を下げるのは、自分が間違っただけでいい
です。



それぞれの社会によ
って、人間関係のあり
方も違います。かつて
私も幼稚園での母親
同士の人間関係の中
うまく入れず、大変悩
んだことがありました。

そんな時、近所で親しく付き合っていた日本人のおじい
ちゃんがふと言ってくれた言葉に私は救われたのです。
「こういう時は、開き直るのもいいことだよ」。開き直る
という概念は韓国にはありません。人間関係は濃密で
関係を割り切るということは難しいのが韓国です。家
に帰って辞書をひき、その言葉について考えてみまし
た。そしてその意味が分かったとき、こういう考え方も
あるんだ、と胸が楽になりました。所詮自分は自分。相手
に合わせなくてもいい。それからというもの、私はこ
の日本で自然体でいられるようになったのです。どこに
いても自分らしく生きていけば、それでいい。外国人と
か日本人とかではなく、自分の生き方で進んでいきたい
ものです。外国人のみな様、日本の中で外国人である
ことを一つの個性、あるいは長所だと思って前を向い
て行きましょうね。 それでは皆様、お元気で。

敬具

iMIMITARO de WA! では皆様のご意見を募集中！あなたのお名前、電話番号を添えてご意見をメール、ファックス、または郵送で送ってください。お待ちしております！